

名 称	反木川上流のヨコグラノキ
場 所	南巨摩郡身延町八坂
所有区分	民有地
面 積	0.0066ha
標 高	680～740m
指定年月	昭和 63 年 12 月 5 日

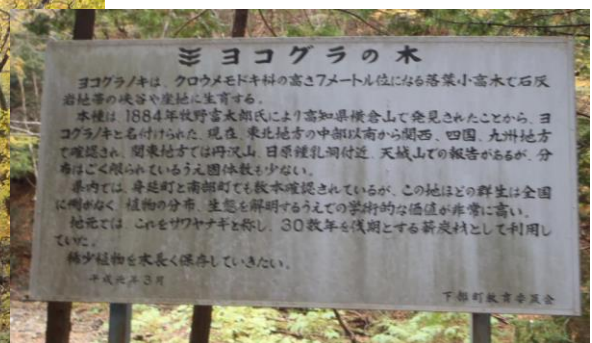
指定理由

身延町反木川上流の川沿い岩地にケヤキ、イロハモミジなどと混生し、ヨコグラノキが群生している。ヨコグラノキは、クロウメモドキ科の高さ 7.0m 位になる落葉小高木で石灰岩地帯の峡谷やがけ地に独立的に生育する。

その形態は、

- 成木の幹の樹皮は灰色で縦に深く裂け、長菱形の網目模様を成すが、幼樹や新枝はあずき色で浮き出た皮目が多い。
  - 枝は長く、前年伸びた小枝の先端部の 4～10 芽が枯れ、枯れた部分の下方の数芽が新枝として伸長する。
  - 葉のつきかたは、短い枝では互生で、長い枝では元部の数枚が互生し、その先は片側に 2 枚ずつ相互につくコクサギ型葉序となる。
- などの形態が観察されるが、その生態に関してははまだ不明な部分が多い。

本種は、1884 年牧野富太郎氏により高知県横倉山で発見されたことから、ヨコグラノキと名付けられた。現在、東北地方の中部以南から関西、四国、九州地方で確認され、関東周辺では丹沢山、日原鍾乳洞付近、天城山での報告があるが、分布はごく限られているうえに、個体数も少ない。県内では、身延町と南部町でも数本確認されているが、反木川上流ほどの群生は全国に例がなく、植物の分布・生態を解明するうえでの学問的な価値が非常に高い。



撮影日：  
平成 26 年 11 月 6 日